

統計トピックス No. 132

統計からみた我が国の高齢者

－「敬老の日」にちなんで－

総務省統計局では、「敬老の日」（9月19日）を迎えるに当たって、統計からみた我が国の65歳以上の高齢者のすがたについて取りまとめました。

内容

I 高齢者の人口（人口推計 2022年9月15日現在）（2ページ～）

- 総人口が減少する中で、高齢者人口は3627万人と過去最多
総人口に占める割合は29.1%と過去最高
- 日本の高齢者人口の割合は、世界で最高（200の国・地域中）

II 高齢者の就業（労働力調査）（6ページ～）

- 高齢就業者数は、18年連続で増加し、909万人と過去最多
- 高齢者の就業率は25.1%で前年と同率、65～69歳は初めて50%超え
- 就業者総数に占める高齢就業者の割合は、前年と同率の13.5%で、過去最高
- 高齢就業者は、「卸売業、小売業」や「農業、林業」などで多い
- 高齢の非正規の職員・従業員は10年前に比べ225万人増加し、
その割合は6.3ポイント上昇
- 非正規の職員・従業員についての主な理由は、
男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最多
- 日本の高齢者の就業率は、主要国の中でも高い水準
- 高齢就業者数は2021年8月から2022年5月まで減少傾向で推移



I 高齢者の人口

**総人口が減少する中で、高齢者人口は3627万人と過去最多
総人口に占める割合は29.1%と過去最高**

我が国の総人口（2022年9月15日現在推計）は、前年に比べ82万人減少している一方、65歳以上の高齢者（以下「高齢者」といいます。）人口は、3627万人と、前年（3621万人）に比べ6万人増加し、過去最多となりました。総人口に占める割合は29.1%と、前年（28.8%）に比べ0.3ポイント上昇し、過去最高となりました。

男女別にみると、男性は1574万人（男性人口の26.0%）、女性は2053万人（女性人口の32.0%）と、女性が男性より479万人多くなっています。

人口性比（女性100人に対する男性の数）をみると、15歳未満では105.0、15～64歳では102.6と男性が多いのに対し、65歳以上では76.7と女性が多くなっています。

高齢者人口を詳しくみると、70歳以上人口は2872万人（総人口の23.0%）で、前年に比べ39万人増（0.4ポイント上昇）、75歳以上人口は1937万人（同15.5%）で、前年に比べ72万人増（0.6ポイント上昇）、80歳以上人口は1235万人（同9.9%）で、前年に比べ41万人増（0.4ポイント上昇）となりました。なお、75歳以上人口は、総人口に占める割合が初めて15%を超えました。これは、いわゆる「団塊の世代」（1947年～1949年生まれ）が2022年から75歳を迎え始めたことによると考えられます。（表1）

表1 年齢3区分別人口及び割合（2021年、2022年）－ 9月15日現在

区 分	総人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち							
					70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	95歳以上	100歳以上	
2022年												
人 口 (万人)												
男女計	12471	1452	7392	3627	2872	1937	1235	661	265	66	9	
男	6061	744	3743	1574	1207	766	451	212	69	12	1	
女	6410	708	3648	2053	1665	1171	784	449	197	53	8	
総人口に占める割合 (%)												
男女計	100.0	11.6	59.3	29.1	23.0	15.5	9.9	5.3	2.1	0.5	0.1	
男	100.0	12.3	61.8	26.0	19.9	12.6	7.4	3.5	1.1	0.2	0.0	
女	100.0	11.1	56.9	32.0	26.0	18.3	12.2	7.0	3.1	0.8	0.1	
人口性比 *	94.6	105.0	102.6	76.7	72.5	65.4	57.5	47.2	35.0	23.3	13.8	
2021年												
人 口 (万人)												
男女計	12553	1479	7453	3621	2833	1865	1194	639	252	62	9	
男	6103	758	3774	1572	1189	732	434	203	64	11	1	
女	6450	722	3679	2049	1644	1133	761	436	188	51	7	
総人口に占める割合 (%)												
男女計	100.0	11.8	59.4	28.8	22.6	14.9	9.5	5.1	2.0	0.5	0.1	
男	100.0	12.4	61.8	25.8	19.5	12.0	7.1	3.3	1.1	0.2	0.0	
女	100.0	11.2	57.0	31.8	25.5	17.6	11.8	6.8	2.9	0.8	0.1	
人口性比 *	94.6	105.0	102.6	76.7	72.3	64.6	57.0	46.5	34.3	22.5	13.8	

資料：「人口推計」

※) 女性100人に対する男性の数

注) 表中の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある（以下この章において同じ。）。

総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年（4.9%）以降一貫して上昇が続いており、1985年に10%、2005年に20%を超え、2022年は29.1%となりました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、この割合は今後も上昇を続け、第2次ベビーブーム期（1971年～1974年）に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、35.3%になると見込まれています。（図1、表2）

図1 高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）

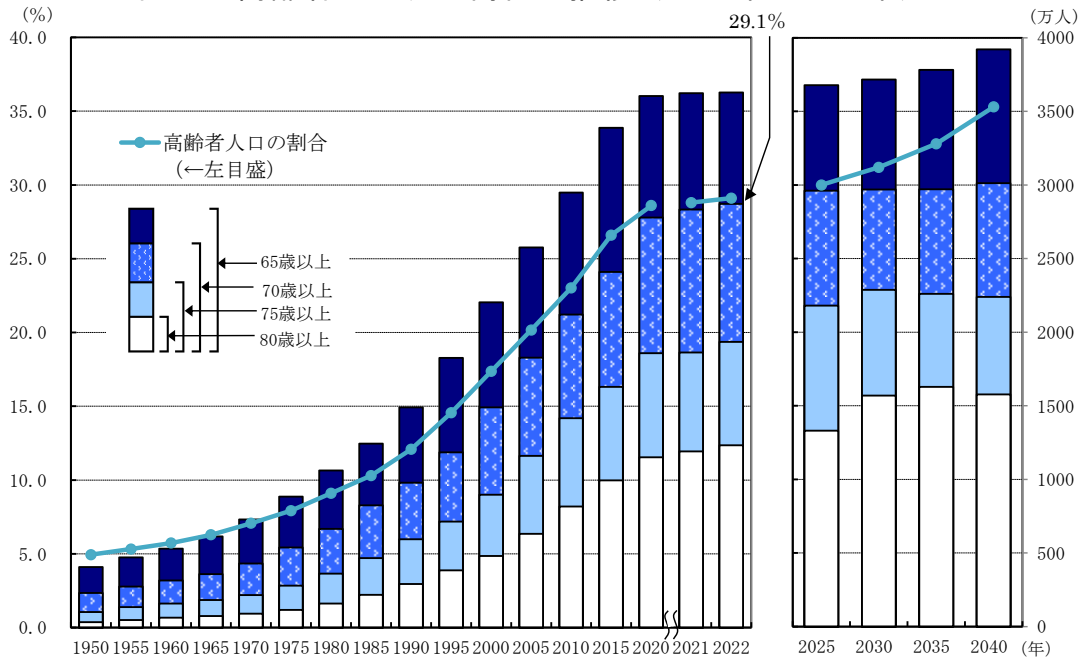


表2 高齢者人口及び割合の推移（1950年～2040年）

年次	総人口 (万人)	高齢者人口 (万人)				総人口に占める割合 (%)			
		65歳以上	うち 70歳以上	うち 75歳以上	うち 80歳以上	65歳以上	うち 70歳以上	うち 75歳以上	うち 80歳以上
1950	8320	411	234	106	37	4.9	2.8	1.3	0.4
1955	8928	475	278	139	51	5.3	3.1	1.6	0.6
1960	9342	535	319	163	67	5.7	3.4	1.7	0.7
1965	9827	618	362	187	78	6.3	3.7	1.9	0.8
1970	10372	733	435	221	95	7.1	4.2	2.1	0.9
1975	11194	887	542	284	120	7.9	4.8	2.5	1.1
1980	11706	1065	669	366	162	9.1	5.7	3.1	1.4
1985	12105	1247	828	471	222	10.3	6.8	3.9	1.8
1990	12361	1493	981	599	296	12.1	7.9	4.8	2.4
1995	12557	1828	1187	718	388	14.6	9.5	5.7	3.1
2000	12693	2204	1492	901	486	17.4	11.8	7.1	3.8
2005	12777	2576	1830	1164	636	20.2	14.3	9.1	5.0
2010	12806	2948	2121	1419	820	23.0	16.6	11.1	6.4
2015	12709	3387	2411	1632	997	26.6	19.0	12.8	7.8
2020	12615	3603	2779	1860	1154	28.6	22.0	14.7	9.1
2021	12553	3621	2833	1865	1194	28.8	22.6	14.9	9.5
2022	12471	3627	2872	1937	1235	29.1	23.0	15.5	9.9
2025	12254	3677	2961	2180	1331	30.0	24.2	17.8	10.9
2030	11913	3716	2969	2288	1569	31.2	24.9	19.2	13.2
2035	11522	3782	2971	2260	1629	32.8	25.8	19.6	14.1
2040	11092	3921	3013	2239	1578	35.3	27.2	20.2	14.2

資料：1950年～2020年は「国勢調査」、2021年及び2022年は「人口推計」

2025年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計

（国立社会保障・人口問題研究所）から作成

注1）2021年及び2022年は9月15日現在、その他の年は10月1日現在

注2）国勢調査による人口及び割合は、2015年までは年齢不詳をあん分した結果、2020年は不詳補完結果

注3）1970年までは沖縄県を含まない。

◆ 「人口推計」の詳しい結果は、次のURLを御覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

人口推計

検索

日本の高齢者人口の割合は、世界で最高※

2022年の高齢者の総人口に占める割合を比較すると、日本（29.1%）は世界で最も高く※、次いでイタリア（24.1%）、フィンランド（23.3%）、プエルトリコ（22.9%）などとなっています。

※ 人口10万以上の200の国及び地域中

（表3）

表3 高齢者人口の割合（上位10か国）（2022年）

順位	国・地域	総人口 (万人)	65歳以上人口 (万人)	総人口に占める 65歳以上人口の割合 (%)
1	日本	12471	3627	29.1
2	イタリア	5904	1420	24.1
3	フィンランド	554	129	23.3
4	プエルトリコ	325	75	22.9
5	ポルトガル	1027	235	22.9
6	ギリシャ	1038	237	22.8
7	マルティニーク	37	8	22.8
8	ドイツ	8337	1869	22.4
9	ブルガリア	678	152	22.4
10	クロアチア	403	90	22.4

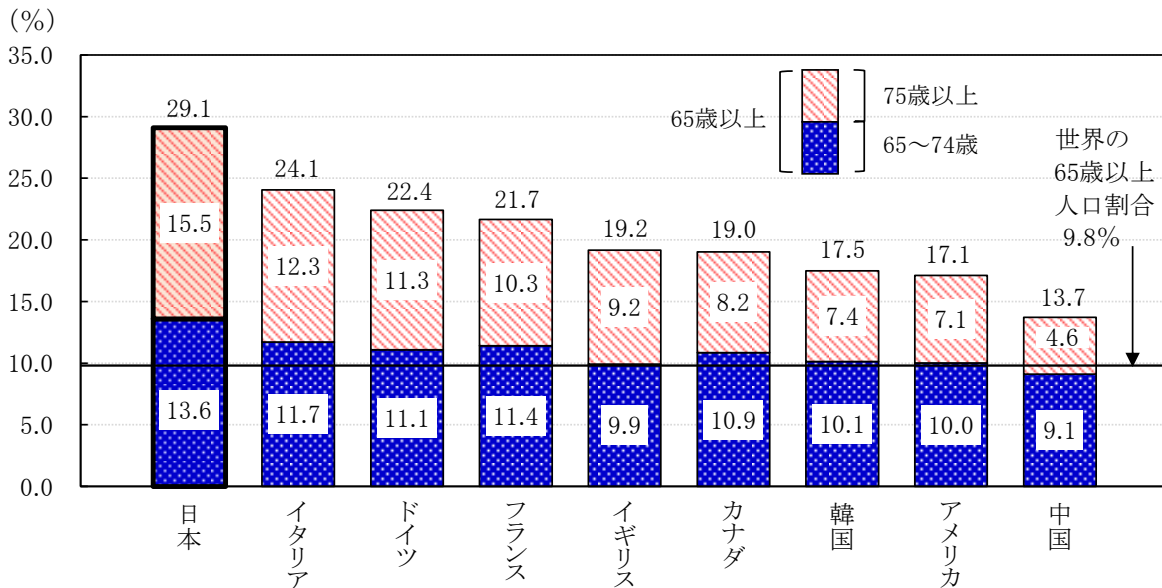
資料：日本の値は、「人口推計」の2022年9月15日現在

他国の値は、*World Population Prospects: The 2022 Revision* (United Nations) における将来推計から、人口10万以上の200の国及び地域の2022年7月1日現在の推計値

主要国における2022年の高齢者人口の割合を比較すると、65～74歳及び75歳以上の双方で、日本が最も高くなっています。

（図2）

図2 主要国における高齢者人口の割合の比較（2022年）



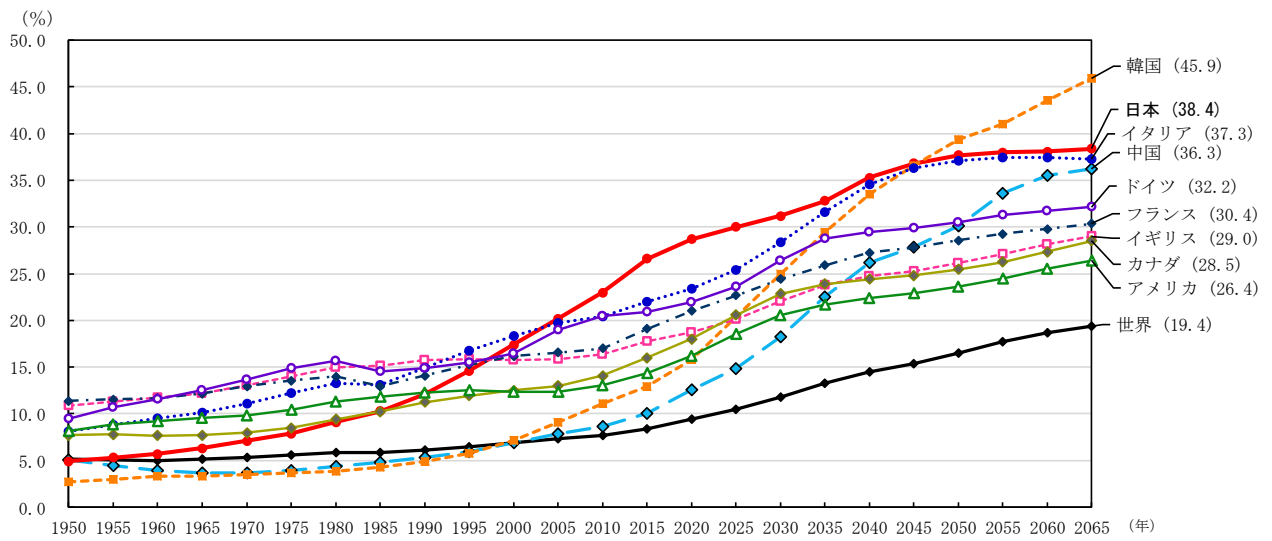
資料：日本の値は、「人口推計」の2022年9月15日現在

他国の値は、*World Population Prospects: The 2022 Revision* (United Nations) における将来推計から、2022年7月1日現在の推計値

主要国における高齢者人口の割合の推移をみると、各国とも上昇傾向となっています。

(図 3)

図 3 主要国における高齢者人口の割合の推移 (1950 年～2065 年)



資料：日本の値は、2020年までは「国勢調査」の10月1日現在、2025年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計（国立社会保障・人口問題研究所）の各年10月1日現在の推計値
 他国の値は、World Population Prospects: The 2022 Revision (United Nations) 各年7月1日現在の推計値

◆詳しい結果は、以下のURLを御覧ください。

人口推計：<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

World Population Prospects：<https://population.un.org/wpp/>

人口推計

検索

Ⅱ 高齢者の就業

高齢就業者数は、18年連続で増加し、909万人と過去最多

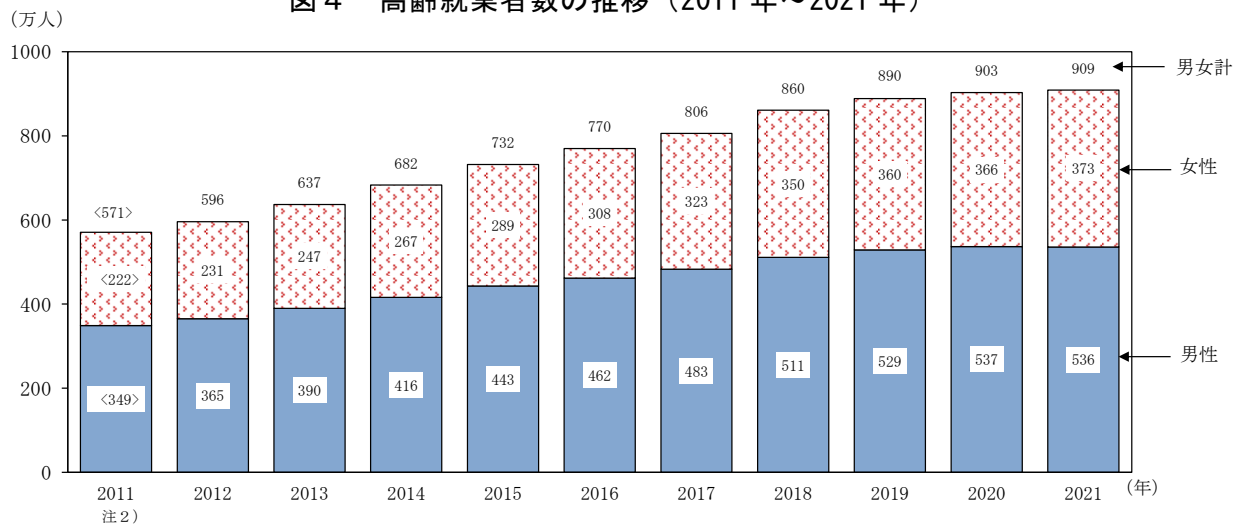
2021年の高齢者の就業者^{※1)}（以下「高齢就業者」といいます。）数は、2004年以降、18年連続で前年に比べ増加し、909万人と過去最多^{※2)}となっています。

※1) 就業者とは、月末1週間に収入を伴う仕事を1時間以上した者、又は月末1週間に仕事を休んでいた者

※2) 比較可能な1968年以降

高齢就業者数の対前年増減をみると、2012年に「団塊の世代」が65歳となり始めたことなどにより、2013年から2016年を中心に、65～69歳で増加しました。また、2017年以降は「団塊の世代」が70歳となり始めたことなどにより、主に70歳以上で増加しています。（図4、図5）

図4 高齢就業者数の推移（2011年～2021年）

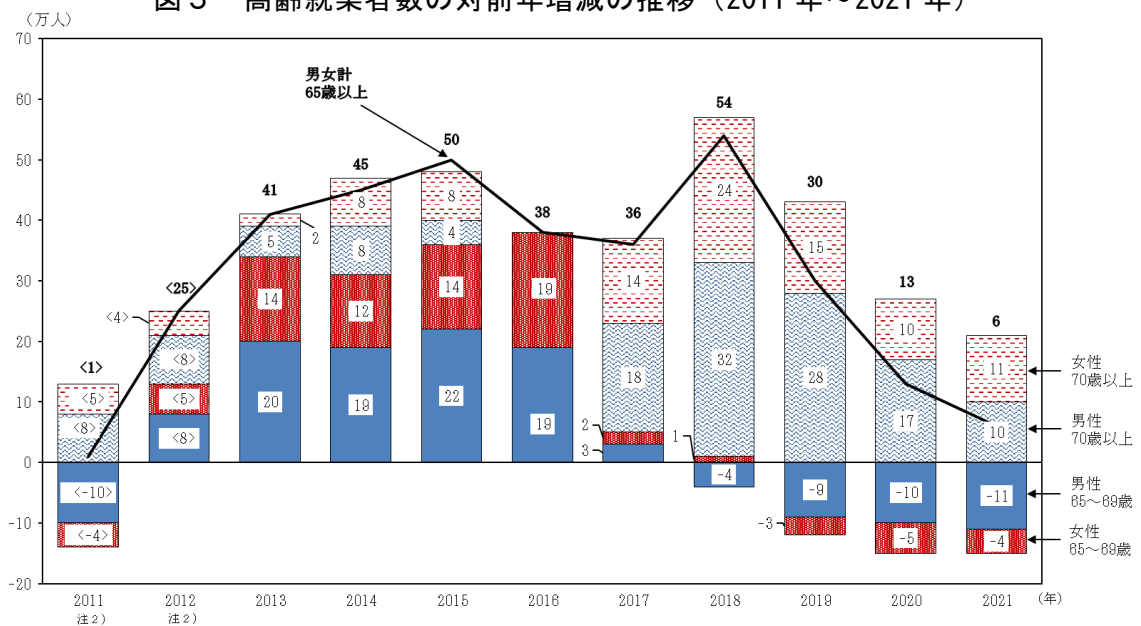


資料：「労働力調査」（基本集計）

注1) 数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

注2) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

図5 高齢就業者数の対前年増減の推移（2011年～2021年）



資料：「労働力調査」（基本集計）

注1) 数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計の数値と内訳の計が一致しない場合がある。

注2) 2011年及び2012年は、東日本大震災に伴う補完推計値

高齢者の就業率は25.1%で前年と同率、65～69歳は初めて50%超え

2021年の高齢者の就業率^{※3)}は25.1%となり、前年と同率になっています。

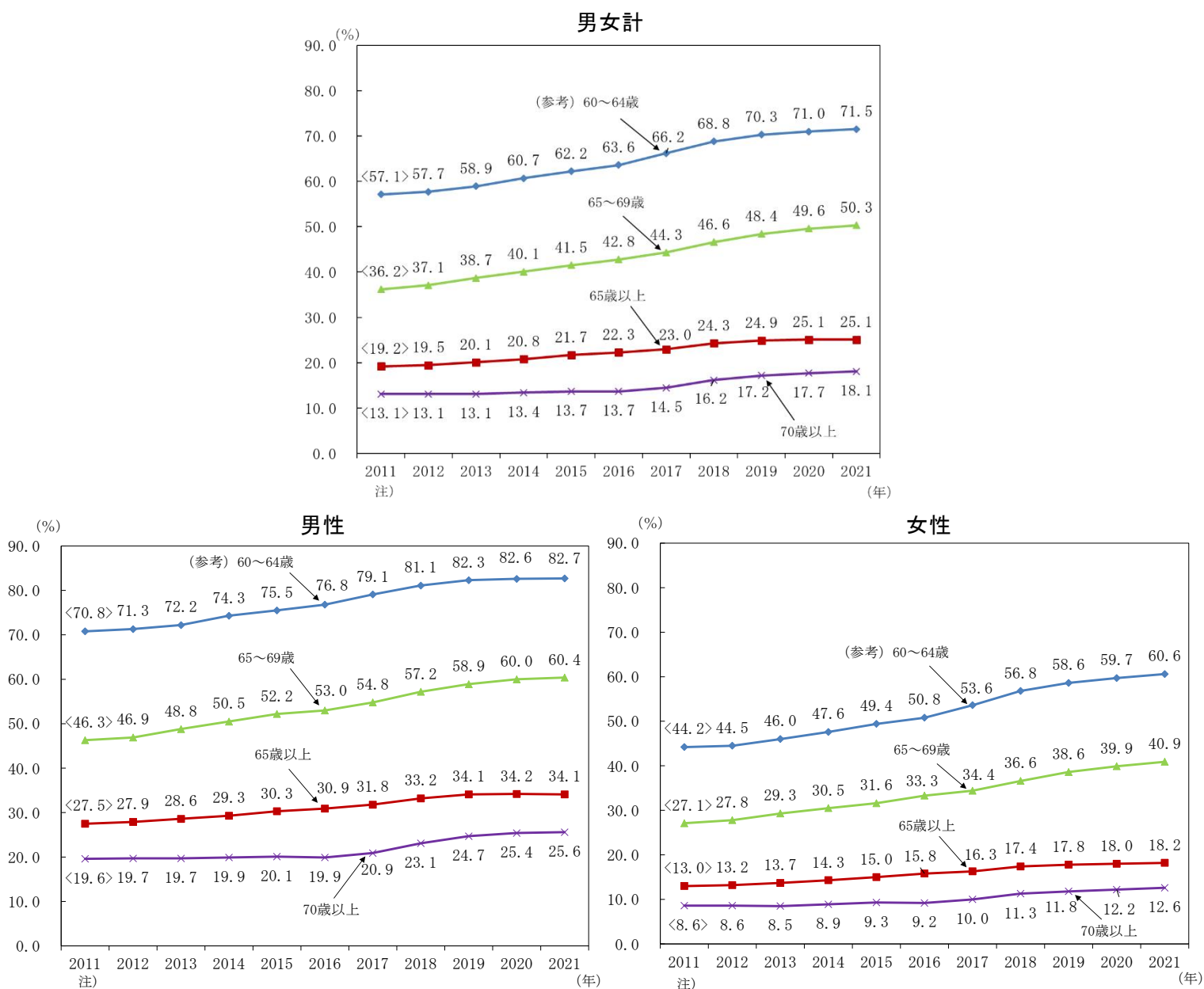
年齢階級別^{※4)}にみると、65～69歳は10年連続で上昇し2021年に初めて50%を超えて50.3%となり、70歳以上は5年連続で上昇し2021年に18.1%となっています。

また、男女別にみると、男性が34.1%と前年に比べ低下、女性が18.2%と10年連続で前年に比べ上昇しています。このうち65～69歳の就業率をみると、男性は2014年に50%を超え、2021年は60.4%となっています。一方、女性は2014年に30%を超え、2021年は40.9%となっています。 (図6)

※3) 高齢者の就業率は、65歳以上人口に占める就業者の割合

※4) 年齢階級別就業率は、各年齢階級の人口に占める就業者の割合

図6 高齢者の就業率の推移 (2011年～2021年)



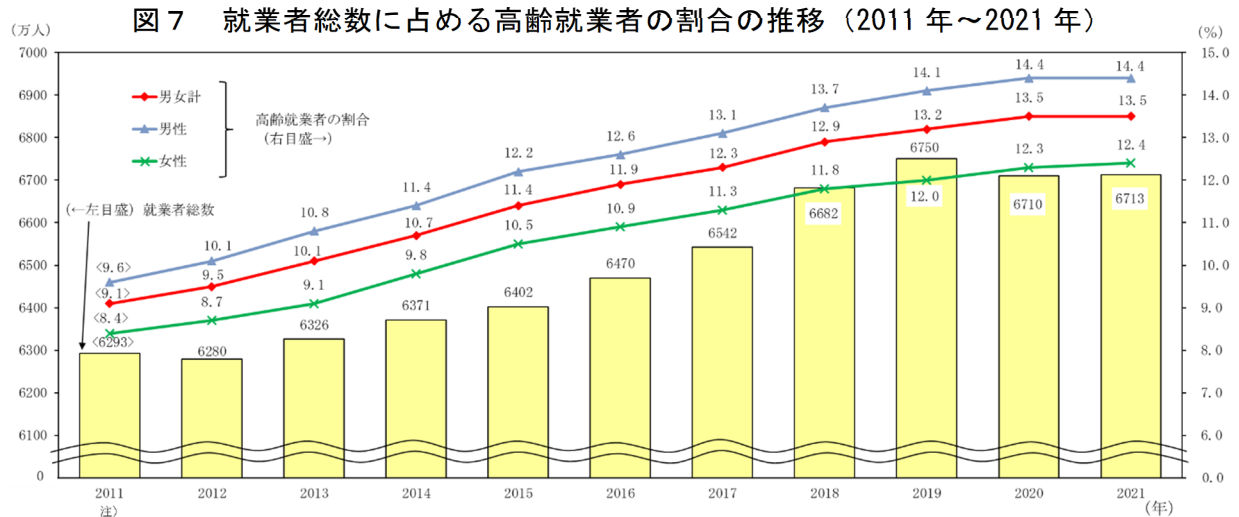
資料：「労働力調査」(基本集計)

注) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

就業者総数に占める高齢就業者の割合は、前年と同率の13.5%で、過去最高

15歳以上の就業者総数に占める高齢就業者の割合は、前年と同率の13.5%と、過去最高[※]) となっています。(図7)

※) 比較可能な1968年以降



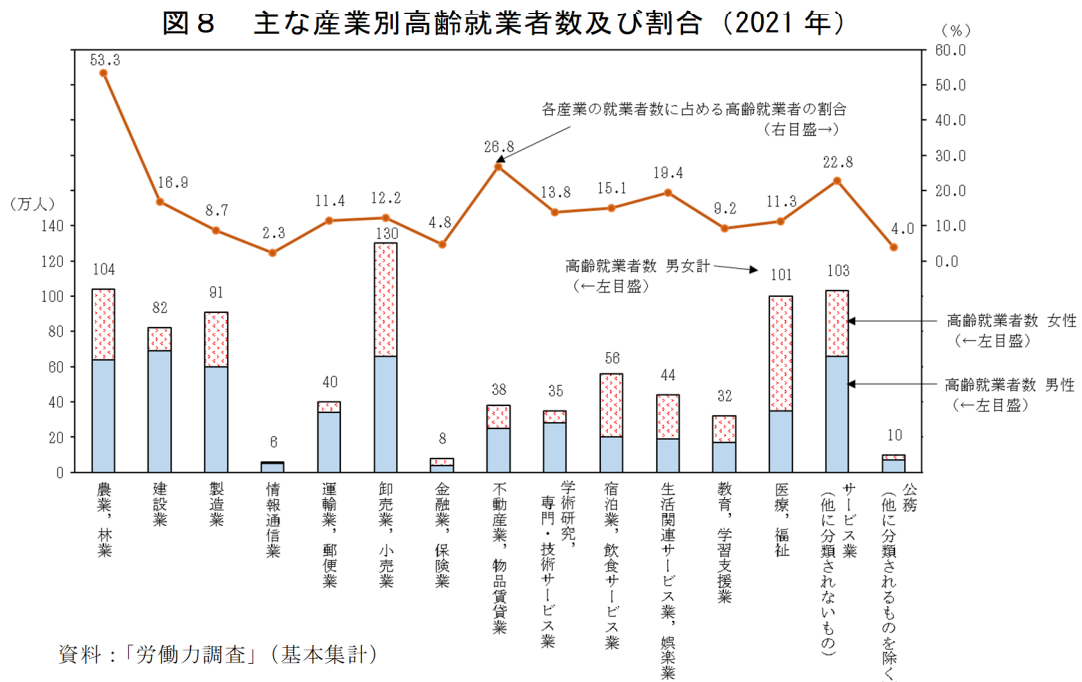
資料: 「労働力調査」(基本集計)

注) 2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

高齢就業者は、「卸売業、小売業」や「農業、林業」などで多い

高齢就業者を主な産業別にみると、「卸売業、小売業」が130万人と最も多く、次いで「農業、林業」が104万人、「サービス業 (他に分類されないもの)」が103万人、「医療、福祉」が101万人などとなっています。

なお、各産業の就業者に占める高齢就業者の割合をみると、「農業、林業」が53.3%と最も高く、次いで「不動産業、物品賃貸業」が26.8%、「サービス業 (他に分類されないもの)」が22.8%、「生活関連サービス業、娯楽業」が19.4%などとなっています。(図8)

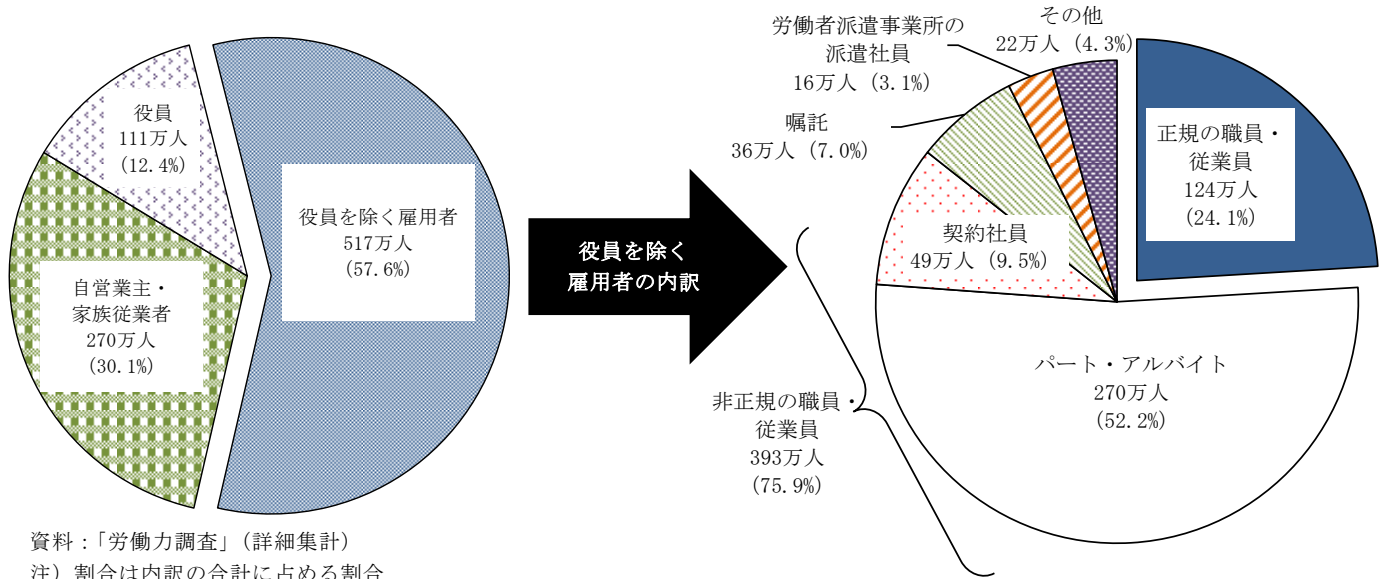


資料: 「労働力調査」(基本集計)

高齢の非正規の職員・従業員は10年前に比べ225万人増加し、その割合は6.3ポイント上昇

高齢就業者を従業上の地位別にみると、役員を除く雇用者が517万人で高齢就業者の57.6%、自営業主・家族従業者が270万人で同30.1%、会社などの役員が111万人で同12.4%となっています。さらに、高齢就業者のうち役員を除く雇用者（以下「高齢雇用者」といいます。）を雇用形態別にみると、非正規の職員・従業員が75.9%を占めており、そのうちパート・アルバイトの割合が52.2%と最も高くなっています。（図9）

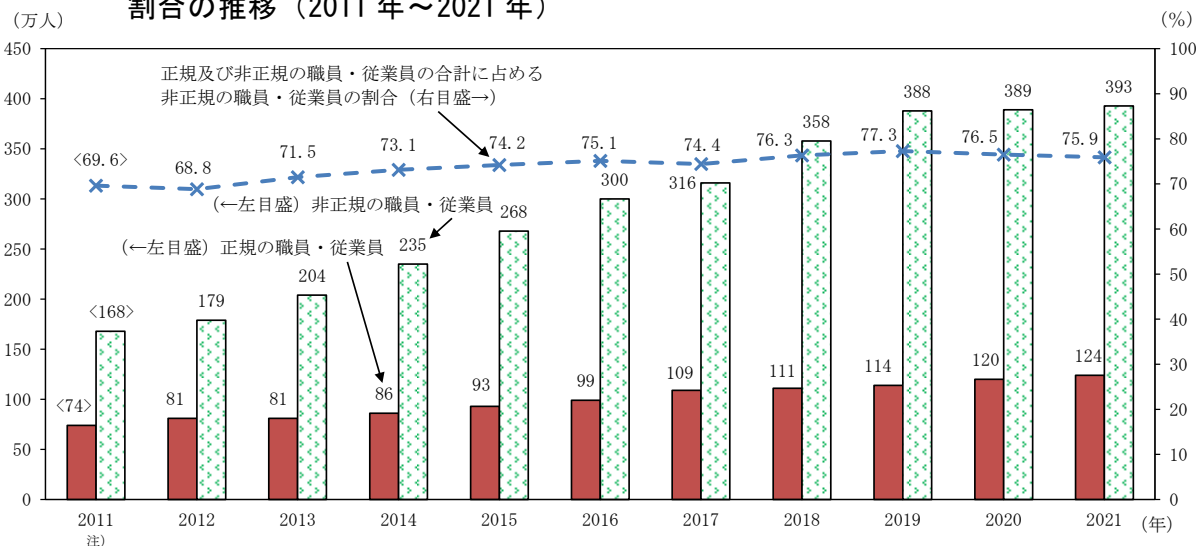
図9 従業上の地位別高齢就業者及び雇用形態別高齢雇用者の内訳（2021年）



資料：「労働力調査」（詳細集計）
注）割合は内訳の合計に占める割合

また、高齢雇用者数の推移を雇用形態別にみると、正規の職員・従業員は2011年（74万人）から2021年（124万人）で50万人増加し、非正規の職員・従業員は、2011年（168万人）から2021年（393万人）で225万人増加しています。（図10）

図10 雇用形態別高齢雇用者数及び高齢雇用者のうち非正規の職員・従業員の割合の推移（2011年～2021年）

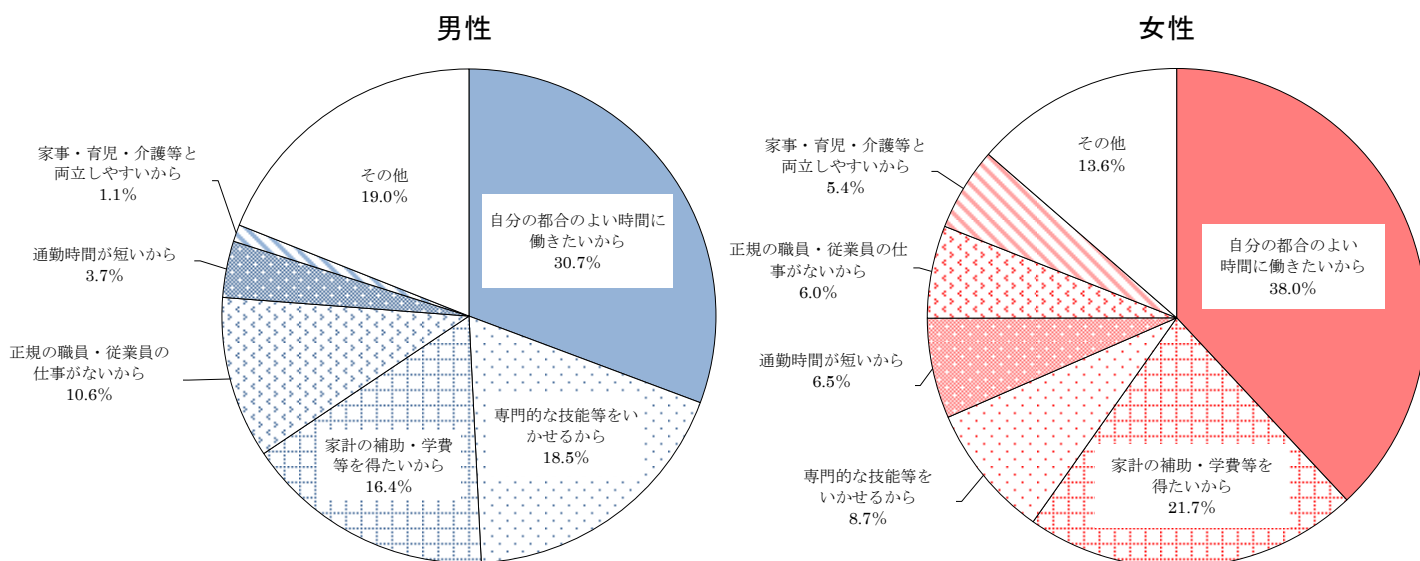


資料：「労働力調査」（詳細集計）
注）2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値

非正規の職員・従業員についての主な理由は、男女とも「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最多

雇用形態が非正規の職員・従業員の高齢雇用者について、現在の雇用形態についての主な理由別の割合を男女別にみると、男性は「自分の都合のよい時間に働きたいから」(30.7%)が最も高く、次いで「専門的な技能等をいかせるから」(18.5%)、「家計の補助・学費等を得たいから」(16.4%)などとなっています。また、女性についても、「自分の都合のよい時間に働きたいから」(38.0%)が最も高く、次いで「家計の補助・学費等を得たいから」(21.7%)、「専門的な技能等をいかせるから」(8.7%)などとなっています。(図11)

図11 非正規の職員・従業員の高齢雇用者が現在の雇用形態についての主な理由(2021年)

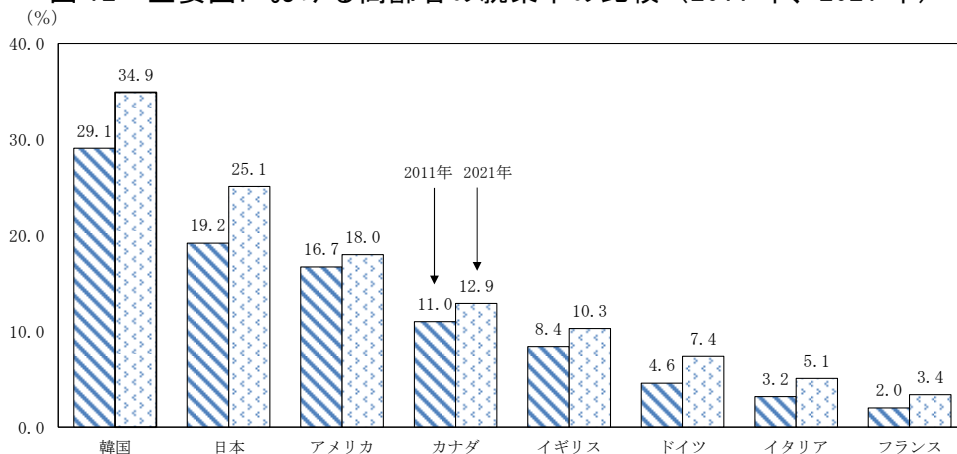


資料：「労働力調査」(詳細集計)
注) 割合は内訳の合計に占める割合

日本の高齢者の就業率は、主要国の中でも高い水準

主要国における高齢者の就業率を10年前と比較すると、日本(+5.9ポイント)、韓国(+5.8ポイント)を始め、各国とも上昇しています。2021年の日本の高齢者の就業率は25.1%となっており、主要国の中でも高い水準にあります。(図12)

図12 主要国における高齢者の就業率の比較(2011年、2021年)



資料：日本の値は、「労働力調査」(基本集計)、他国は、OECD.Stat

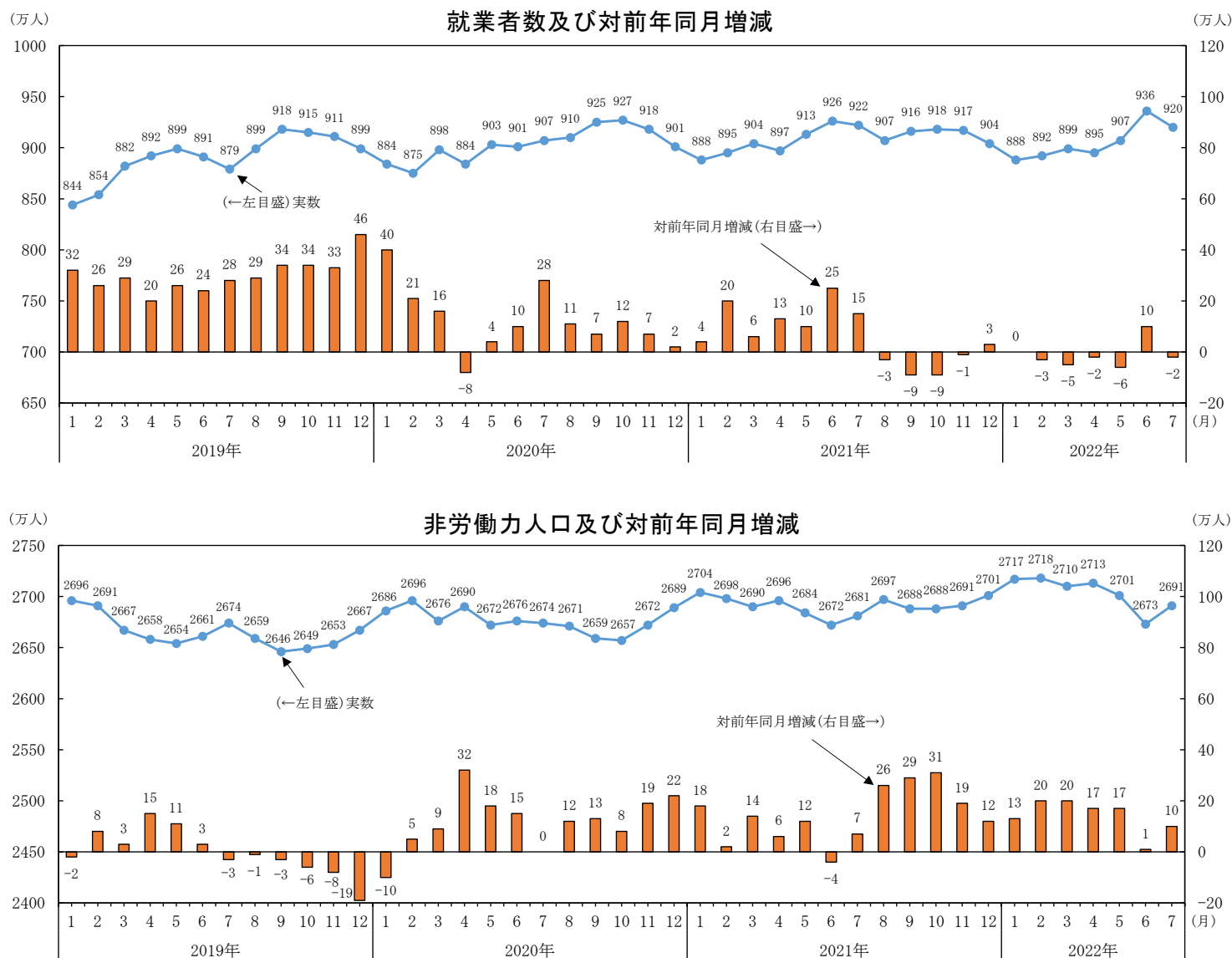
<月次結果>

高齢就業者数は2021年8月から2022年5月まで減少傾向で推移

高齢就業者数の推移を月ごとにみると、新型コロナウイルス感染症が拡大する前の2019年は、前年同月に比べ最大46万人増加した月もあったのに対し、感染拡大後の2020年4月以降は、前年同月と比べた増加幅が最大でも28万人増加となるなど増加幅は縮小し、月によっては減少しています。

特に、東京都など21都道府県へ緊急事態宣言が発令された期間を含む2021年8月から2022年5月までは、前年同月に比べ、就業者は減少傾向で推移する一方、非労働力人口は増加するなど、高齢就業者が労働市場から退出する動きがみられました。(図13)

図13 高齢者の就業者数及び非労働力人口の推移(2019年1月～2022年7月)



資料：「労働力調査」(基本集計)

◆詳しい結果は、以下のURLを御覧ください。

労働力調査：<https://www.stat.go.jp/data/roudou/index.html>

OECD.Stat：<https://stats.oecd.org/>

労働力調査

検索

安心して働ける明日へ。

就業構造基本調査

— 令和4年10月1日 —



総務省統計局

【問合せ先】

調査企画課企画係

東京都新宿区若松町19番1号

TEL : (03) 5273-1159 (直通)

E-Mail : r-kikaku@soumu.go.jp

【各項目に関する問合せ先】

- I 高齢者の人口
(人口推計) 国勢統計課人口推計係 (03) 5273-1009
(World Population Prospects) 調査企画課企画係 (03) 5273-1159
- II 高齢者の就業
(労働力調査) 労働力人口統計室審査発表第一係 (03) 5273-1162
(OECD. Stat)

※統計データを引用・転載する場合には、出典の表記をお願いします。